

木野

KINO PRESS.
KYOTO SEIKA UNIVERSITY

通信

第77号
2021 Dec.

特集

国境を越えて広がる 京都精華大学の学術活動

特集2

「アジア研究国際大会 (ICAS)」開催

卒業生インタビュー

藤原康教さん / 土居直人さん

特集

国境を越えて広がる

京都精華大学の学術活動

京都精華大学は開学当初から基本理念のひとつに「国際主義」を掲げ、国内外に開かれた大学として教育研究活動を続けてきました。今回は、国や地域を越えて、海外の大学や研究機関と協同して展開するプロジェクトを紹介いたします。どの取り組みも、世界をよりよく変革していくための表現活動として手探り状態でスタートしましたが、連携先と密にコミュニケーションを取りながら、少しずつ形をつくりはじめています。

Project 1 「Shared Campus」——世界各国の芸術大学と協同で教育研究を行う

教育と研究を結び付ける 連携プラットフォーム

Shared Campus（シェアードキャンパス）は、国境を越えた教育・研究活動を展開するための連携プラットフォームです。2018年に、京都精華大学を含む世界各国の7つの芸術大学によって創立されました。5つの研究グループ、「クリティカル・エコロジー」「文化／歴史／未来」「ポップ・カルチャーズ」「社会変動」「ツールズ」に分かれ、地球規模のさまざまな

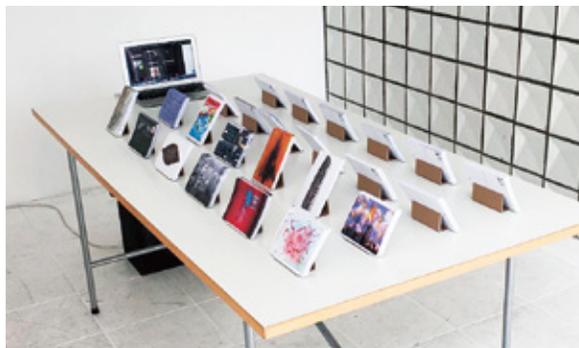
課題に、アートやデザインを通して取り組みます。たとえば「クリティカル・エコロジー」は、加盟校であるチューリッヒ芸術大学と本学の間で、オンラインによる交換授業を実施。フードロスや食材のサステナビリティをテーマにしたワークショップを開催しました。また今年度には、国立台北芸術大学（TNUA）が主催するシンポジウムの一環として、アマソンの先住民ヘイインタビュを行い、人と自然のあり方を考察しました。

ハイブリッド型で実施した 2つのサマースクール

Shared Campusでは、各研究グループによるサマースクールを開催しています。今年度は、「社会変動」研究グループが「Streets」、「ツールズ」研究グループが「teleprovisation」と題し、各キャンパスで対面参加する学生たちをオンラインで結ぶハイブリッド型で行いました。会場は各大学のため、参加者は慣れ親しんだ環境で、所属大学の教員によるサポート



サマースクールに向けた準備風景(右端・安田先生)



ベルリンでの成果発表展

を受けながら参加できます。オンラインでは、提携大学教員のレクチャーに英語で参加したり、学生同士でグループワークをしたりと、インタラクティブなパフォーマンスに取り組みたりすることが可能です。「Streets」には、本学と香港浸会大学とチューリッヒ芸術大学（スイス）などが参加。合同で混成チームをつくり、テーマを決めてそれぞれが自分たちの住む街を取材しました。通りを行き交う人々の、

“Fashion-Hidden Story”
京都のストリートで取材を重ね、
その成果を服で表現した



その場所への想いや居心地を調査するなど、各地におけるフィールドワークを行い、そこから着想を得た作品をつくり上げました。たとえば、ファッションをテーマにした作品では、透明な素材の服の裏にストリートで取材した人々の想いが描かれました。本学の担当者である安田昌弘（メディア表現学部／ポピュラーカルチャー学部）は、オンラインでの開催を次のように評価します。「コロナ禍でなければ、京都に集まり、皆で京都を調査する予定でした。今回は、同じ街を異なる文化的背景から分析することはできませんでしたが、代わりに、互いの住む街を通して異文化への理解を深めることで、作品にはより豊かな着想が投影されたと思います。」

「teleprovisation」では、本学とチューリッヒ芸術大学、ラサール芸術大学（シン

ガポール）などによる混成チームで物語を創作。多様な表現に取り組みました。「各大学には舞台スペースが設置され、学生たちはカメラとマイクロフォンを使って、その場にいらない相手と物語を共有し、即興で演奏と演技を行いました。その過程で彼らは、自分の想いを伝えるための表現方法を学んでいったのです。発表会の舞台は素晴らしく、特に、直接会えない、触れられないもどかしさを表現した作品は、言語や立場を超えた共通の感動を参加者にもたらしてくれました」（安田）。

サマースクールにおける 学修効果の分析と今後の展望

この取り組みでは、学生に与えた影響を検証するため、学習効果やモチベーシ

ョンの変動を細かく記録し、都度分析しています。その結果から、英語のスピーキング能力が上がったことも分かりました。「参加した学生の満足度は高く、サマースクール以後も交流が継続しているケースも少なくありません。今後はその内容や意義を広く学生に伝え、参加者を増やしながらか進展させていきたいと考えています」（安田）。

Shared Campusの中期的活動には、図書館やアーカイブ資料の共有プロジェクト、共同の博士課程の開発なども計画されています。世界の若い表現者が集うこの共同研究活動の魅力は、彼らの発想力を活かし状況に応じて柔軟に形を変えていけること。今後も独自性のある、新しいプログラムの誕生が期待されます。



国境を越えてリアルタイムで即興パフォーマンスを行った
“Teleprovisation-Group Show-”
Picture by Kara Eurich (ZHdK)

Shared Campus 提携教育機関

- 香港城市大学クリエイティブメディア学院
- 香港浸会大学
- ラサール芸術大学
- 京都精華大学
- 国立台北芸術大学
- ロンドン芸術大学
- チューリッヒ芸術大学
- 中国美術学院

Topics



オンラインジャーナル 「Global Pop Cultures Journal」発表

2021年度、「ポップ・カルチャーズ」研究グループは、研究成果を共有するための新しい方法として、オンラインでのジャーナル(学術雑誌)を計画しています。現在公開中の創刊準備号では、グループのメンバーがキュレーションした研究者やアーティストによる、ビデオブログやエッセイなどが公開されています。



Project 2 「西アフリカ諸国の大学との交流」 ——遠隔で文化理解の場を創出

学生主導の交流基盤を形成し
授業や共同研究にも発展を

今年度スタートした国際文化学部グローバルスタディーズ学科の研究資源を活かし、7月より、全学部生を対象に西アフリカのセネガル、カメルーン、ブルキナファソにある3大学と学生間交流を実施しています。若者の海外離れが進むなかで西アフリカという馴染みのない地域に関心を持ってもらうことや、仏語圏の相手とのコミュニケーション、そしてオンライン・オフラインの組み合わせによる効果的な文化交流のあり方を探ることが目的です。オンライン交流では、相手に伝えたい自国文化や食事、大学生活、文化財などを互いに紹介し、楽しみながら理解を深めました。アフリカ・アジア現代文化研究センター長の藤枝絢子（国際文化学部）いわく、語



海を越えた学生プラットフォームづくりの第一歩へ

学の違いは、翻訳ツールの活用と仏語に堪能な教員のサポートにより、大きな支障にはなりませんでした。その後、手紙や各地の名産品などを送りあい、さらに交流を深めているそうです。

「今回は、文化の違いや共通点を知り、相手に興味を持つきっかけになりました。全学部から25名の応募があり、手軽に交流できるなら関心を持つ学生は少なくないことも分かりました。将来的には、学生主導で交流を継続できるプラットフォームづくりや、授業や共同研究にも発展させていきたいですね」（藤枝）。



相手校からのプレゼント開封会
(右から3番目・藤枝先生、左端から共同研究者の阿毛先生、中尾先生)

Project 3 「FISHSKINプロジェクト」 ——多国籍産学連携共同研究

廃棄される魚皮を活用し
日本の染色技術を世界へ発信

ファッション業界においてもサステナビリティが重要視されるなか、2019年1月に「FISHSKINプロジェクト」が開始しました。これは、食材としての廃棄率が50%を超える魚（廃棄されるのは主に魚皮）に着目し、環境汚染、温暖化や食料問題などの解決も視野に入れて、工業規模の漁業利用について実現の可能性を探究しようという取り組みです。欧州委員会の「ホライズン2020」助成を獲得した4年間の多国籍産学連携共同研究でもあり、ファッションデザイン、マテリアルサイエンス、海洋生物学といっ



アイスランドで情報収集と意見交換を実施
(中央列右から3番目・小北先生)

た異なる領域の機関が参加しています。

本学では、日本の伝統的な染色技術を使った魚革製造実験と、日本での海洋資源を軸にした循環型経済における魚革製造についての調査研究を行っています。2019年度はアイスランドの会合に参加し、情報収集と意見交換を行いました。プロジェクトを担当する小北光浩（デザイン学部）は、今後に向けてこう語ります。「2020年度は染色実験の一環として姫路の皮革産業技術支援センターの協力のもと、鞣し作業や職人が染めた革の後加工の実験を行い、後加工で色ムラが生じる課題を発見しました。原因は、伝統工芸的手法により染色された製品と従来の工業的手法との相性にあると判断し、解決に向けて新たな協力者との連携を図り、品質確保をめざしています。

2021年度は、コロナ禍にあり現地での調査が難しい局面にありますが、引き続き商品化に向けて取り組みを進めます。循環型経済という視点から、廃棄される魚皮の調達先の選定と確保や、流通条件である相当量の魚皮の定期的な供給、輸送も含めた調達コストの採算性などに鑑みた調査を進め、より持続的な社会への一助となるよう一歩ずつ前進していきたいと考えています。」

在学生の声

伊藤瑠星さん 国際文化学部1年
交流会でマルア大学の学生に日本語で質問したところ、何人かが流暢な日本語で返答してくれたことが、非常に印象的でした。私は日本とカメルーンにおける社会問題の地域差に興味があるので、なぜ同じような問題が両国で発生するのかなどについて、現地の学生たちとフェイスブックを行い、将来的に問題解決へと結びつくように発展させていきたいです。

林加穂さん メディア表現学部1年

「日本ではなぜお箸を使うの？」と、理由を求められて驚きました。逆に「なぜ手で食べるの？」と尋ねると、「自分の身体から直接取り入れるのが自然だと思う」という答えがすぐに返ってきたことにもびっくりしました。「当たり前」を見つめなおし、自国の文化にも理解を深められるよい機会だと思っので、今後さまざまなテーマで交流を続けていきたいです。



相手校からのコメント

ウマル・アマンジャンギさん マルア大学(カメルーン)学生
言葉の壁があっても、お互いのことを知り、知の探究を共同で行いたいという思いが強かったので、交流が複数の言語で行われたことには勇気づけられました。私たち学生にとって、「日出づる国」日本との共同作業、知識の共有は、たいへん重要な機会。今後は日本人の生活を体験できるようなフィールドプログラムもできたらと思います。

セリーヌ・デイエカルヴェさん マルア大学(カメルーン)学生
この交流を通じて、食べ物やファッション、教育やテクノロジー、アートや建築などの日本文化に浸ることができました。日本の方々と、生活様式の違いについて話し合い、共有できたことは、とても貴重な経験です。今後は私たちが日本語で自分自身を表現できるようになって、京都精華大学の友人たちと日本語でやり取りし、互いの知識をさらに深めていきたいと思っています。

アブドゥライ・ウエドラオゴさん ジョゼフ・キセルボ大学(ブルキナファソ)教員
今回の取り組みでは、短い期間で多くの成果を得られました。京都精華大学の学生のみならずの流行についての発表や、日本の楽器演奏もたいへん興味深いものでした。また、女性の教員や学生がプロジェクトへ積極的に参加していることも、アフリカとは対照的で、印象に残りました。今後も活発な交流を継続し、新たな活動を模索したいと思っています。

News

領域を超えた交流で
研究活動の発展をめざす

京都精華大学における研究・社会連携活動の推進および成果の発信を担う全学研究機構では、制作・研究のさらなる発展をめざし、教員を対象に「研究サロン」を発足させました。2021年9月の第1回研究サロンでは、国際マンガ研究センター、伝統産業イノベーションセンター、アフリカ・アジア現代文化研究センターの概要や取り組み、研究成果について紹介しあい、学部や領域を超えた交流の一步を踏みだしています。当面はリモート開催となりますが、今後毎月1度のペースで開催する予定です。ゆくゆくは自由集まる懇親の場にて、異なる領域の教員や研究者らが互いに知的交流を深めることで、これまでにない共同研究につながることを期待しています。



加工された魚革



北欧の伝統的な鞣し技法のワークショップ



原料となるサーモンの革

This project has received funding from the European Union's Horizon 2020 research and innovation programme under the Marie Skłodowska-Curie grant agreement No FISHSkin 823943



リモート開催となった第1回「研究サロン」



シンポジウムの様子。左からサコ学長、山極氏、井上氏

特集 2

世界の研究者が集う国際会議 「アジア研究国際大会 (ICAS)」開催

The 12th International Convention of Asia Scholars Kyoto, Japan

オランダ・ライデン大学に本部を置くIAS (International Institute for Asian Studies) が1968年に設立した「アジア研究国際大会 (以下、ICAS)」は、アジアを中心としたあらゆる分野の研究者が集う大規模な国際会議です。日本での初開催となる第12回目は、京都精華大学が主催機関に選ばれ、初となる100%オンラインでの開催に至りました。

日本で初めての開催となる 大規模学会を主催する意義

ICAS (アイカス) は2年に一度、世界各地で開催されており、毎回約1500人から3000人の各分野の研究者が集い、議論を交わします。開催期間は5日間と長く、内容も多岐にわたります。日本初の開催を主催することは大きなチャレンジでしたが、開催に至るプロセスで学ぶものは多く、世界に開かれたグローバルな大学をめざす本学にとって、非常に意義あるものでした。実施にあたり京都府、京都市、総合地球環境学研究所、国際日本文化研究センター、京都大学東南アジア地域研究研究所など関係機関の協力を得ながら取り組みました。開催形式については、本部との間で対面かオンラインかの議論が続き、100%オンラインに決まった時は、開催まで残り半年を切っていました。開催に至るまでをサコ学長は次のように振り返ります。「オンラインとはいえ、この短期

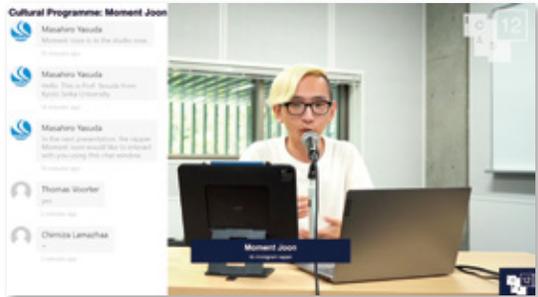


ウスビ・サコ学長

間に322の学術セッションに加え、数々の文化プログラムを準備し、やり遂げた教職員のパワーには驚かされました。たとえば論文のアブストラクトは、5名の教員が一人あたり130件もの英語による査読を担当しました。運営担当の職員たちも、実施形態が確定しないなかで、臨機応変に準備を進めてくれました」。

をサコ学長は次のように語ります。「アジア研究やネットワーク構築では、その多くが欧州主導で行われています。しかしアジアに属する日本のポテンシャルを考えると、そのなかに組み込まれる必要がはたしてあるのか、疑問が湧いてきます。また、欧州の視点では、アジア独自の価値観を理解しがたい傾向にあると考えています。たとえば、インドのスラムは解決すべき貧困問題と捉えられがちですが、実際にはそ

の地域でしか得られない生きる知恵や喜びがあるはず。本学では、多様な価値観を理解しながら独自のアジア研究やネットワークをつくりたいと考えています。そのなかで、京都精華大学みずから新しい学会を設立できればいいですね。その時にはきっと、ICASを主催した経験が活かされるでしょう。参加者の満足度を第一にしながら、私たちの価値観を世界に発信できる学会の実現を夢見ています」。



韓国出身のラッパーMoment Joonさんによるレクチャー

ICAS運営の実際と そこから学び得たこと

学会に加えて、本学では学内の人的資源と教員の外部ネットワークを駆使し、京都と日本文化を発信できるプログラム企画・運営を行いました。大会記念シンポジウムでは、総合地球環境学研究所所長の山極壽一氏と国際日本文化研究センター所長の井上章一氏、そしてサコ学長とのクロスディスカッションが実現。また教員らもみずから出演し、電子音楽やピアノのコンサート、DJパフォーマンスなどを披露しました。

今回のように学術会議にエンターテインメント性を盛り込み、参加者が楽しめる場づくりは、文化・芸術の総合大学である本学ならではの独自性を活かす絶好の機会となりました。同時に、外部機関との連携や、学内におけるオンライン分野の知識に長けた人材育成の必要性も明らかになりました。

次なる目標は、本学主導の アフリカ・アジア研究と ネットワークづくり



最終日には、狂言やDJパフォーマンス、日本の民謡をエスニックアレンジで演奏するバンド「民謡クルセイダース」のコンサートなどが催され、ライブで配信された



その土地がもつ文化や
物語を大切にしながら、
地域コミュニティを育てたい

土居 直人さん
Naoto Doi

一級建築士
株式会社コスモスモア 勤務

デザイン学部 建築分野
2009年卒業

お香という
幽玄の贅沢さを届け、
伝統産業の活性化に貢献

藤原 康教さん
Yasunori Fujiwara

営業職
株式会社 山田松香木店 勤務

人文学部
2008年卒業



卒業生インタビュー

独自の道を歩む京都
現在の活動や今後の夢、

精華大学の卒業生に、
セイカの思い出を伺いました。

セイカの思い出
在学中に建築ユニット「アーバントラップ」を組み、学内の裏山に子どもたちのための秘密基地をつくりました。



セイカの思い出
阿波踊りチーム「精華連」に所属。本場である徳島にみんなで行き、現地で踊りを披露したのも印象深い思い出です。



住宅やオフィスの建築や設計、デザインを手がける株式会社コスモスモアで、12年のキャリアを持つ土居さん。現在は大阪支店で、管理職として企画や設計の仕事に携わっています。最初の4年間は建築の一通りを学ぶため、みずから望んで営業と施工管理の仕事に従事し、それがいま役に立っているといいます。

「建築はチームワークによって成り立つもの。営業や施工のチームをはじめ、さまざまなパートナー企業の方々と一緒にものをつくっていくのは面白いですね。案件は請負が多く、その種類は多岐にわたりますが、2019年には初の自社事業用のホテル『KYOTOLOGY』（京都市東山区）を手がけました。インパウンドが増えている最中に立案されたこのホテルは、欧米やオセアニア圏のカップルを対象にして、セイカの先輩であるGENETIOの山中コウジさんと共同で設計したものです。『学ぶ』という意味を込めてLOGYと名づけ、京都の文化や歴史を肌で感じてもらえるよう全室に坪庭を配し、陰翳礼讃をコンセプトにした空間づくりを心がけました。おかげさまで、海外の建築アワードで5つの賞をいただき、嬉しく思っています」。

土居さんはプライベートでも専門性を活かして、自分が住む地域のコミュニティづくりを行っています。「セイカで培った、ゼロから自分なりに考えをまとめ、形にしていくプロセスは、社会に出るからすごく役立っていると思います」。

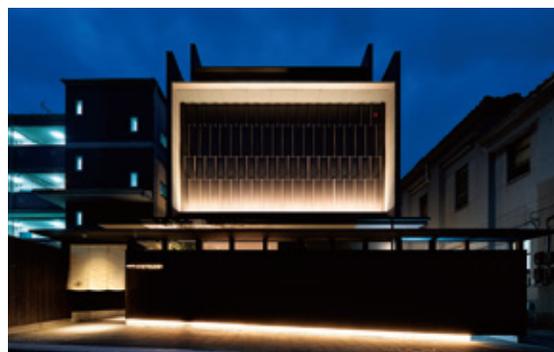


天然香原料を使用したアロマスプレーも企画した

「学生時代から和のところに惹かれていました」という藤原さんは、卒業後、日本文化の代表のひとつであるお香の世界に飛び込みました。就職先は、京都市内にある山田松香木店。江戸時代から続く、多彩なお香製品を製造・販売する会社です。「たとえば伽羅のような高価な香木でも、炷（た）いて香りを楽しめば消えてしまう。お香には、そんな幽玄の贅沢さという魅力があります」と話してくれました。営業職として寺社仏閣からホテルまで幅広い顧客を担当しているほか、業務内容は多岐にわたります。時には海外に出張することも。「ニューヨークのメトロポリタンミュージアムから依頼を受け、お香体験イベントを開催しました。イベントに参加された方が、後日、当社までわざわざ足を運んでくださり……、とても貴重な経験だったと思います。現地では火気厳禁なので、以前企画したセラミツ

在学中は、もうひたすら建築をしていましたね。こっそり大学に泊まって課題をしながら、朝見つかって怒られたこともありました。授業課題などでその土地の歴史を紐解き、友人たちと討論を重ねながら制作に取り組んだ経験は、いま自分が行っているまちづくりの活動にも影響を与えています」。

今後は、地域のコミュニティを醸成させるための空間づくりと、企業での活動を結びつけたい、という土居さん。最後に先輩たちへのメッセージをいただきました。「課題はとことん突き詰めて、自分が納得できるものづくりをすることが大切です。その経験はきっと、将来の役に立つと思いますよ」。



ホテルKYOTOLOGY(京都市東山区)

クヒーターの香炉が活躍しましたね」と語る藤原さんは、新しいアイデアを次々に生み出し、新商品の企画・開発も行っています。

「セイカは思い出だらけ。変わった人がいっぱいいて、いろんな付き合いをしました。この仕事では、実に多くの方々にお会いします。ご希望によっておすすめできる商品が違ったり、異なる立場の方々と企画を進めていったりするなかで、相手を認め、理解する能力は非常に重要です。そこでうまくコミュニケーションが取れるのは、大学での学びが影響していると思いますね。精華では、自分が動けば何かが変わると感じられた。活動を重ねて大きく成長した経験が、いまにもつながっています」。柔軟な発想で、新しいことにどんどんチャレンジしていく藤原さん。商品の販売にとどまらず、伝統産業の現場全体を盛り上げていく活動を、今後も心より応援しています」。

メトロポリタンで使われた電子香炉



木野からヤツホー

あの先生元気かな...?
そう思っている卒業生のみなさんへ、
セイカの教員からのメッセージです。



1. コロナに気をつけながら北海道を旅しました(小西)
2. デジタルクリエーションコースで行っているVRコンテンツ制作(大溝)
3. 毎日見るアトリエ近くの風景(佐川)
4. 単行本化された私の配信用作品「Be My Dunwich」(板橋)
5. 2020年5月に撮影した無人の大学構内(澤田)
6. コロナ禍でYouTuberのスタジオのようになった研究室(ソーン)



やんちゃな娘を子育て中。
京都に来たら連絡ちょうだい!



レイチェル・ソーン
人文学部 / 国際文化学部

みんな、コロナに負けずに元気してる? ソーンです! 今ではレイチェル・ソーンだよ。8年前に再婚して、6年ほど前にトランスジェンダーとしてカムアウトした。6歳のやんちゃな娘を子育て中。息子の方はもう29歳だよ(歳を感じる?)。息子はカリフォルニアで素敵なイラン人のパートナーと仲良く生活してる。ところで21年間マンガ学部でいた私は2021年度に国際文化学部に移籍した(相変わらずマンガばっかりやってるけど!)。コロナ禍の教育現場は大変。研究室がデカイグリーンスクリーンやら照明に埋もれてYouTuberのスタジオのようである。京都に来たら連絡ちょうだい!

自由になれば大学へ訪れ、
記憶を蘇らせてみてください。



澤田 昌人
人文学部 / 国際文化学部

2021年度にメディア表現学部が新設され、人文学部が国際文化学部になりました。私は後者の学部で新しくできた「グローバルスタディーズ学科」に移り、新しく大学の仲間になった先生方と一緒に忙しい毎日を送っています。コロナのために、大学は大きな影響を受けました。とくに2020年の前期は、静まり返った大学構内に学生の姿もなく、廃墟の夢でも見ているかのようでした。今は徐々に活気が戻り、将来への期待が膨らみつつある、という状況です。近い将来、大学へ自由に訪れてもらうことができるようになれば、ぜひ思い出の場所に立ち寄って、皆さんの記憶を蘇らせてみてください。

卒業生中心の作画陣で、
配信専門のマンガ誌を展開。



板橋 しゅうほう
マンガ学部 ストーリーマンガコース

毎年巣立っていく学生たちとマンガでつながりを持つと、一昨年あたりから三栄という出版社の協力を得て、「Zone of Cthulhu」という配信専門のマンガ誌を出している。卒業生中心の作画陣で、ラブリフトのクツールがベースのホラーと、新青年と呼ばれる日本のSF/ホラー黎明期の小説を原作とするマンガ誌。卒業生の何人かは作品がまとまり、配信用の単行本化もできているので、興味のある方は上記のマンガ誌の名前をamazonあたりで検索してみてください。また、作品で参加したい卒業生がいたら、気楽にコンタクトをとってきてね。私も連載中だよ。

絵画を続けて40年以上。
セザンヌ主義者のあせり。



佐川 晃司
芸術学部 洋画専攻

セザンヌは「恥ずべき耄碌状態に陥るよりは描きながら死ぬ」と語り、言葉通り1906年の秋に67歳で世を去った。私は今66歳。比較するのも厚かましいが、セザンヌの死の年まであと一年しかない。とてもあせる。私はもう少しは長生きするつもりでいるが、絵画をやり続けて40年以上、瑣末なことばかりに気をとられ、セザンヌが生涯をかけて成した仕事の、ほんのひとかけすらも成し得ていない。10年、欲を言えばあと20年。心身を整え、耄碌することなく制作を続け、もう少し良い作品をつくり、みなさんにお見せしたい。しかし酒はやめられません。

卒業生の皆さんと話すとたびに
勇気づけられています。



大溝 範子
デザイン学部 デジタルクリエーションコース

2007年度から非常勤講師、2013年度から専任教員としてデジタルクリエーションコースに関わっています。その間、表現と技術を融合した授業の強化を行い、VRコンテンツの制作環境も整えました。卒業生が京都を訪れたついでに気軽に教員の部屋をたずねてくれたり、2月の卒業には遠方から駆けつけてくれたりすることも多く、本当に皆に愛されているコースだと誇りに思います。それぞれ自分の人生を力強く歩んでいる卒業生の皆さんの話を聞くと、自分自身も勇気づけられています。今の窮屈な世の中を、皆さんの世代が変えてゆき、新しい価値観をつくっていかれることを願っています。

着任してはや26年。
楽しい思い出ばかりです。



小西 通博
芸術学部 日本画専攻

日本画の実技教員として着任して早いものでもう26年目になります。振り返ると学生たちと過ごしてきた日々は楽しいことばかりでしたが、日本画家と教員という二足の草鞋で突っ走ってきた体に(心にも)ガタが生じ始めていることに気づき、今年、退職の決断をいたしました。数年前から海や山を旅し、日本の自然の中で過ごすことが僕にとってとても大切な時間に思え、虫や草花たちと戯れたり描いたりする時間をもっと増やせたら良いなと思っていました。今後ですが、あと少しだけシニア教員として在籍させていただき、教員としてやり残したことに向き合いたいと思っています。「中途半端やなあ?」の声も聞こえそうですが……。

雲研究者、アーティスト、経済思想家による講演会をWEBで配信



アセンブリーアワー講演会

「雲を愛する技術」 荒木健太郎 (雲研究者)
2021年6月17日(木)

「巢穴からやりなおせ」 村上 慧 (アーティスト)
2021年7月1日(木)

「人新世の『資本論』」 斎藤幸平 (経済思想家)
2021年7月8日(木)

学生・教職員のみ学内会場 / 学外・一般の方へはWEB配信

昨年度に続き、学内会場とオンライン配信が合わせて実施された「アセンブリーアワー講演会」。

まず6月17日には、気象庁気象研究所研究官で雲研究者の荒木健太郎氏をお迎えしました。荒木氏は、雲のしくみや名前などの基本情報や、美しい空に出会うコツ、気象災害をもたらす雲の特徴や備えなどを解説。講演会のタイトル通り、「雲を愛する技術」を教えてくださいました。7月1日には、「巣穴からやりなおせ」と題し、アーティストの村上慧氏が講演。自作の「家」を背負って歩き、国内外で移住を繰り返すプロジェクトなど、これまでに手がけた、さまざまな作品の制作動機や制作意

図が語られました。結びで村上氏は、「システムのなかで生きていく限りは、生活すること自体がひとつの社会運動となってしまう。それを自覚し続けるために制作を続けている」と述べました。

翌週8日には、著作『人新世の「資本論」』がベストセラーとなった経済思想家の斎藤幸平氏が、グリーン成長の陰で起きている生態系破壊や有限資源収奪の問題点、豊かな社会への提案や活動例などを紹介。現代の世界に絶望しているという学生の問いには、「夢を持つとう、みなさんが希望を失わなければ2050年には社会を動かす側になっているだろう」と力強い言葉で答えてくださいました。

コロナ禍の大学生生活について考える討論企画を学生有志が主催



「SEIKAを『みんなでつくる』 Creating SEIKA Together」 2021年5月27日(木)

対話参加(対面)型とオンライン型の
オープンディスカッション



2021年5月、「SEIKAを『みんなでつくる』」と題し、学生・教職員が自由に参加できるオープンディスカッション企画を本学の有志学生が主催。さまざまな立場からコロナ禍での困りごとを共有し、コロナ禍においてより良い大学のあり方を考えたいと呼びかけ、ウズビ・サコ学長が賛同して行われました。

当日は、出演を希望した学生11名、学長含む教職員5名が、コロナ禍における大学生生活をテーマに語り合う様子をネットで配信。事前に届いた80通以上のアンケートやメール、リアルタイムで届いたコメントを紹介しつつ、意見交換が行われました。前半は「コミュニケーション」を入口に、話題は授業のオンライン化へ。「会えない」「反応が見えない」など辛かったことや、「学生全員にフラットに目が届く」「アーカイブが残せる」など案外良かったことについて、具体的なエピソードが挙げられました。後半は「困りごとについてみんなで考える」という内容から、「主体性ができてきた」と語る3〜4年生と、「動くべき方向や動き方が分からない」という1〜2年生との隔たりも明らかに。最後には主催学生から、「自分も大学の一部だから、このフラットなディベートの会を続け、おもしろい大学をのんびりつくっていき」と述べられました。

現代アフリカのビジネスについて正面から考える全5回の公開講座

公開講座「現代アフリカ講座」を、本学アフリカ・アジア現代文化研究センターが開催。4年目となる今年度は、「アフリカでビジネスのシーズを育てる」をテーマに、現地でビジネスを行っているゲストを招き、全5回にわたってオンラインで開講しました。

初回は、バイオ燃料の製造販売などを手がける日本植物燃料株式会社CEOの合田真氏が、持続可能な運搬や耕作にも寄与する馬の利活用についてなど、アフリカでの展開で見いだした新たな知見を紹介。第2回は、新興国におけるゼロからの商品開発について、ナイジェリアの事例をもとに新興国食品開発コンサルタントであるゼ



現代アフリカ講座
「アフリカでビジネスのシーズを育てる」(全5回)
2021年7月23日(金)~9月10日(金) WEB配信

ロワンクエストの小林健一氏に解説していただきました。第3回は、株式会社シュールキューブジャポンの代表取締役・佐藤弘一氏がアフリカで現地で協働して行うスタートアップ事業戦略について、第4回は、アフリカビジネスパートナーズの代表パートナーである梅本優香里氏が日本や世界の国々のアフリカ進出状況について紹介。最終回では、日本貿易振興機構の佐藤丈治氏が、現地で見えてきたアフリカビジネスの課題と可能性についてお話しくださいました。今やビジネスの進出先として最も熱い注目を集めるアフリカの最新情報を提供する、濃密な連続講座となりました。

比叡山の麓に暮らす人々の歴史と文化に迫る講座を妙満寺と共催

2021年5月、比叡山が美しく見える木野・岩倉の地に半世紀前から居を置く妙満寺と本学が共催で、叡山電鉄沿線に広がる「洛北」地域に関する全6回の郷土講座をスタートしました。講師には本学教員をはじめ、唐紙屋「唐長」や叡山電鉄株式会社など京都ゆかりのゲストを迎え、伝統工芸や沿線の文学・歴史、景観史、郷土玩具など、さまざまな角度から洛北について学べる機会となっています。

第1回のテーマは「祈る」。堤邦彦(人文学部)が司会を務め、妙満寺執事である土持悠孝上人のお話を中心に、雪・月・花の三名園と称される「雪の庭」や、同山に残る「安珍・清姫の鐘」の由来や



伝説などについて深く掘り下げていきました。また妙満寺は、コンサートの主催など、枠にとらわれず地域の方々に場を開放しており、芸術学部の展示会が開催されたこともあります。今回の講座は急遽オンラインに変更となりましたが、同山からの配信で開催することができました。参加者から画面に映る掛け軸についての質問があるなど、妙満寺を起点に、知的好奇心の広がる回となりました。講座は順調に回を重ね、12月23日に最終回を開催予定。「語る」をテーマに、卒業生であり、陰陽師の歴史漫画を描いた睦月ムンク(マンガ学部)と堤が対談を行います。

2021年度前期公開講座ガーデン 郷土文化講座
「比叡山の麓に暮らす人々〜歴史と文化〜」
(全6回・予定)
2021年5月27日(木)~12月23日(木) WEB配信

サテライトスペースDemachi ※入場無料



- 日本画 三人展 死に花をさかせる
2021年12月15日(水)～12月25日(土)
12:00～19:00
〔休館〕12月19日(日)、20日(月)
- 創造的ドローイング
2022年1月7日(金)～1月13日(木)
12:00～19:00
- タイトル未定
(芸術学部専門演習科目「現代アートプロジェクト演習4」)
2022年1月15日(土)～1月20日(木)
12:00～19:00
- 京都精華大学大学院1年生研究制作展
2022年1月25日(火)～1月29日(土)
12:00～19:00

京都国際マンガミュージアム



- オンライン展覧会 ドイツ深掘りマンガ大賞
開催中～2022年7月31日(日)
 - 姫川明原画展 -マンガ「ゼルダの伝説」をふりかえる-
開催中～2021年12月26日(日)
 - 「村上知彦コレクション」ミニ展示
開催中～2021年12月26日(日)
- 〔休館〕毎週火・水曜(祝日の場合は翌日)、
2021年12月27日(月)～2022年1月3日(月)
〔時間〕10:30～17:30(最終入館時刻/17:00)

その他公開講座

(アセンブリーアワー講演会など)



サテライトスペースKara-S



京都精華大学展2022

—卒業・修了発表展—



2022年2月16日(水)～2月20日(日)
〔場所〕京都精華大学
※2月19日(土)、20日(日)はオープンキャンパスも同時開催
※要予約

活躍する在学生、卒業生の
情報を募集しています。

多数の在学生が社会貢献活動やコンテストでの受賞など広く活躍
をしています。詳細はぜひウェブサイトをご覧ください。また、今後も
木野通信では、活躍する在学生や卒業生情報を紹介していく予定
です。情報をお持ちの方は、広報グループまでお知らせください。

- 京都精華大学 ウェブサイト
<https://www.kyoto-seika.ac.jp>
- 広報グループ
kouhou@kyoto-seika.ac.jp



News

05

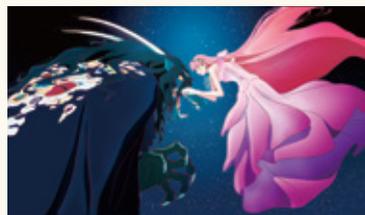


日本で暮らすアフリカルーツのゲストを招いた
ダイバーシティ推進センターのオンライン講演会

2021年6月、本学ダイバーシティ推進センターが、誰もが無料で視聴できるオンライン講演会「ブラックミックスとして自分らしく～日本で暮らすアフリカルーツのヒトとして、女性として、若者として生活していくこと～」を開催。本学アフリカ・アジア現代文化研究センターの後援により、アフリカにルーツを持つ中高生・若者のためのコミュニティ「African Youth Meetup」から、アフリカルーツのゲスト2名を招きました。彼女らの話を通じて、異なるルーツや文化、背景をもった人々が、それぞれの「違い」を認め合い、自分らしくいきいきと生活するにはどうすべきか、一緒により良い社会をつくっていくためにはどうすべきかを模索。他者と共生することについて、ともに考える時間となりました。

News

06



©2021 スタジオ地図

人文学部卒業生の中村佳穂さんが映画
「竜とそばかすの姫」に声優出演し劇中歌も歌唱

2016年に人文学部を卒業し、シンガーソングライターとして活躍する中村佳穂さんが、今年7月に公開された細田守監督のアニメーション映画「竜とそばかすの姫」に声優主演しました。中村さんは在学中に音楽活動を本格始動させ、ソロ、デュオ、バンドと流動的な形態でライブ活動を展開。これまで「FUJI ROCK FESTIVAL」などの大規模フェスやイベントに出演し、2018年発表の2nd.アルバム『AINOU』では新進気鋭のアーティストに贈られる「APPLE VINEGAR -Music Award-」で大賞を受賞しています。今回の映画は、オーディションで圧倒的な歌声と表現力が大絶賛されて決まった、主人公の歌声が軸となる物語。主人公のすず／ベル役と劇中歌の歌唱も担当し、表現力豊かな声で観客を魅了しました。

News

03



京都大学やフランスの機関と連携し、
森林環境を考える国際ワークショップを主催

2021年4月に開設した学位横断型「人間環境デザインプログラム」が、京都大学やフランスの各種機関と連携した国際ワークショップ「森林-持続可能な未来に向けての視点交換」を7月に主催。自然環境について考えるフランスの「ニュー・デ・フォレ祭」と連携し、環境と人間の多様性についての意識向上を目的に行いました。同プログラムの1年生は、フランスとつないだオンライントークセッションを視聴。その後は、800種以上の樹木を生育する京都大学の樹木園「上賀茂試験地」を歩いて観察するなど、フィールドワークで体験的に学びました。学生たちは1日を通じて、生物保護、植林、林業と、さまざまな視点から森林について知見を深め、これからの人間社会と森林の関係がどうあるべきかを考えました。

News

04



漫画家・楠本まき氏の展覧会の一環として
ご本人が語るオンラインイベントを実施

『週刊マーガレット』でデビューし、「KISSxxxx」、「Kの葬列」、「致死量ドーリス」、「赤白つるばみ」シリーズなどの作品で人気の漫画家・楠本まき氏の展覧会「線と言葉・楠本まきの仕事」展を、2021年6月から8月にかけて京都国際マンガミュージアムで開催。37年の仕事の軌跡をたどりながら、線と言葉が織りなす楠本作品の美しい世界に迫りました。8月16日には、ご本人が展示について語るオンライントークイベントも実施。コロナ禍によりイギリス在住の楠本さんとリモートで準備やチェックを行った話を含め、会場の映像や写真を交えながら、本展の見どころや裏話、作品の制作秘話などを楠本さんにインタビュー。観覧者からの質問にも答えていただくなど、貴重なお話が伺える機会となりました。

News

01



今年の「木野祭」は初のオンライン開催
ライブパフォーマンス中継・作品展示など

学園祭「木野祭」は、過去にさまざまな模擬店やゲストを招いたライブステージ、イベントなどが展開され、深い友情と思い出の1日となってきました。新型コロナウイルスの影響により、昨年は中止となりましたが、今年はオンライン形式での開催を決定。長い歴史のなかで初めての試みです。テーマは「Reborn」。今回の実施を新たな挑戦ととらえ、思いを一つにして木野祭を生まれ変わらせたい、という願いが込められています。当日はライブパフォーマンスの中継や、平面や映像などの作品展示、オンラインマーケット、マスクコンテストなどが行われました。コンテストの賞品には、竹宮恵子元学長や卒業生の横川正紀さんが展開するDEAN & DELUCA等が協賛。学生をはじめ、教職員、卒業生も団結し、新しい木野祭となりました。

News

02



さまざまな学生が安心して食事を楽しめるよう
「ハラール弁当」「ヴィーガン弁当」を販売

本学では、さまざまなバックグラウンドをもつ学生が安心して食事を楽しめるよう、食堂のメニューにも食材表記をするなどの対応を行ってきました。その一環として、豚肉やお酒などイスラム教徒(ムスリム)が食べられない食材を除いた「ハラール弁当」と、肉・魚介類・卵・乳製品など、動物性食材を一切使用していない「ヴィーガン弁当」の販売を今年10月1日にスタート。教育後援会(保護者会)の援助を受け、それぞれ500円で提供しています。現在は、授業がある日の11時半から、悠々館学食前エアストリームで、水・金にハラール弁当、月・火・木にヴィーガン弁当を販売中です。いずれも食材だけでなく味にもこだわられた、とてもおいしい仕上がりになっています。

～ご支援くださる皆様へ～ (ご寄付のお願い)

本学のさらなる教育・研究活動の充実、学生活動の支援のため、温かいご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。

● 寄付募集Webサイト

<https://www.kyoto-seika.ac.jp/about/donate>

クレジットカード決済、コンビニ決済、インターネットバンキング決済など、手間の少ない便利な方法をご用意しています。



● リサイクル募金(旧称:古本募金)Webサイト

<https://lp.kishapon.com/seika/>

読み終えられた本やDVDに加え、貴金属、ブランド品、切手、年賀状、商品券などをご提供いただき、その査定換金額を京都精華大学に寄付いただく取組です。

2020年度は、法人・個人あわせて約6,300万円、リサイクル募金で約30万円のご支援をいただきました。2021年度は、法人・個人の皆様からのご寄付が約300万円、リサイクル募金が約15万円となっています(10月末時点)。昨年比で、低調な状況です。本学のめざす「表現で世界を変える」教育・研究活動のために、ぜひ、みなさまにお力添えいただければ幸いです。よろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ

京都精華大学 経営企画グループ 寄付募集担当

E-mail: donation@kyoto-seika.ac.jp

TEL 075-702-5201 FAX 075-702-5391

『木野通信』送付先ご住所等の変更を希望される方は、木野会ホームページの住所変更フォームまたはFAXで変更事項をご連絡ください。

京都精華大学 経営企画グループ 木野会事務局

<https://seikajin.com>

FAX 075-702-5391



表紙の作品

『META-morphose』ミュージックビデオ 2020年度 卒業制作

山口 駿さん

デザイン学部 ビジュアルデザイン学科 デジタルクリエイションコース

4分24秒

この20年余で、ブラウン管テレビは高解像度の液晶画面に置き換わり、折りたたみ式携帯電話はスマートフォンに変化した。粗いドットだったグラフィックは緻密な3DCGがリアルタイムで描写されるようになった。昨今では、拡張現実と呼ばれる画面の境界を突破したコンテンツが台頭する。この作品に登場するオブジェクトはその画面同士が移動するが、その中で形が変化するものもいれば、バグが起こって消滅してしまうものもある。これを“時代による表現の淘汰と進化”のメタファーとして表現した。

京都精華大学

国際文化学部

人文学科

グローバルスタディーズ学科

メディア表現学部

メディア表現学科

芸術学部

造形学科

デザイン学部

イラスト学科

ビジュアルデザイン学科

プロダクトデザイン学科

建築学科

マンガ学部

マンガ学科

アニメーション学科

人文学部

総合人文学科

ポピュラーカルチャー学部

ポピュラーカルチャー学科

人間環境デザインプログラム

大学院

芸術研究科

デザイン研究科

マンガ研究科

人文学研究科

木野通信

KINO PRESS.

木野通信 第77号

2021年12月10日 発行

京都精華大学 広報グループ

〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137

TEL 075-702-5197 www.kyoto-seika.ac.jp